

(別紙1)

インターンシップの意義と効果及び効果的な体験

1. インターンシップとは?

学生が在学中に、企業等において自らの専攻、キャリアに関連した実習的・研修的な就業体験を行うことです。

2. インターンシップには、どんな効果があるの?

(1) 企業等にとって

① 企業理解の促進

学生と企業等との接点が増えることにより、インターンシップを受け入れる企業に対する学生の理解が進みます。また、関連業種全体の理解が促進されます。

② 社員の人材育成

インターンシップの受入を通じて、社員の意識向上や指導担当社員の能力向上が図られます。

③ 職場の活性化

若者を受け入れることで職場に良い刺激が生まれ、意外と気づいていなかった改善点に気づくなど、活性化につながります。

④ 大学との関係強化

インターンシップ受入により大学関係者と会話する機会を得、大学と連携を深める、あるいは新たに関係を築くきっかけとなります。

(2) 大学教育、学生にとって

① 職業意識の醸成

学生が企業等において、実社会の就業体験をすることにより、卒業後の自らの職業選択や適性を考える機会となり、高い職業意識の醸成が期待されます。

② 教育への反映

企業等の活動を見学・体験するなかで、学生としての学びとの関わりを感じることで、新たな学修意欲を喚起する機会となります。

③ 社会人としての資質の向上

企業等で接する社会人の就業態度と自らの姿勢を照らし合わせることで、社会人としてのあるべき姿を見出し、それに向けて努力しようとする気づきの機会となります。

3. 学生にどんな体験をしてもらえばいいの？

(1) インターンシップを効果的に実施するために

「職業意識の醸成と学修意欲の喚起」のため

3つの要素を組み込む

【① 座学・オリエンテーション】

○企業に対する理解

【② 実務体験】

○働くことの意義を知る
○仕事の楽しさを知る
○職業人の責任と心得を知る



3つの社会人基礎力を身に着ける契機にする。
「前に踏み出す力(アクション)」
「考え抜く力(シンキング)」
「チームで働く力(チームワーク)」

【③ 振り返り・懇談の時間】

○大学で学んでいることが、職業においてどのように役立つか
○よく役立てるため、大学でどのように学べばよいか



新たな学修意欲の喚起

(2) インターンシップの基本パターン

項目	内容例
1. 期間	1週間(5日)以上
2. 基本パターン	
(1) 座学	1日目《午前》 ・オリエンテーション ・会社概要、事業、業界の説明 1日目《午後》 ・実務実習の説明
(2) 見学	2日目 ・社内各部署と実習職場の見学
(3) 実務実習	3日目 4日目 ・実務実習
(4) まとめ	5日目《午前》・レポート、発表資料の作成 5日目《午後》・実習報告会、意見交換会